

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ずA3片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

エントリー学校名：

神奈川県 横浜市立荏田西小学校

活動名： ※どのような課題をどのような手法で解決したのか、わかりやすく伝える活動名を記入してください。

主タイトル (12文字以内) トライし続ける教職員育成

副タイトル (16文字以内) ~人材育成指標の活用~

解決すべき課題： ※活動を行う前に、課題や目標をどのように設定しましたか？視点などを含めて記載。

- ・R2.2月に改訂された「横浜市教職員人材育成指標」を理解し、セルフ・マネジメントを具現化する必要性
- ・コロナ禍における「新しい教育活動」の創造のために、教職員の柔軟な思考・専門性・対応力の育成が必須
- ・先が見通せない不安感がある中、歩みや学びを止めない「トライし続ける教職員集団の形成」が必要

目標・方針： ※課題を解決するためにどんなストーリーやシナリオを構想して、活動内容を組み立てたのか。

- ・人材育成システムにある「分析チャート」を活用し、自らの資質能力が見える化。PDCAサイクルを自身で回す
- ・「チーム学年経営+1(プラスワン)」の考え方に、人材育成指標の3要素+働き方改革を組み入れ日常化
- ・校内研修や教育委員会の研修を計画受講し(eラーニング等の活用)、学び続ける風土を根付かせる

活動内容： ※目標・方針に基づいてどのような活動を行ったか、その位置づけや関連性

- P** AP: 学校長だよりや打ち合わせを有効活用し、「人材育成指標」に係る具体的な状況や取組を共有
 CAP: 人材育成指標の改訂について校内研修を行い、自らの資質・能力を分析チャートで可視化
- D** AP: 横浜市教育委員会教職員育成課指導主事による校内研修で、分析チャートを基にした今年度目標設定や職員同士の目標支援をシートに記入し、見える化・共有・今年度自身のMBOに反映
 PD: チーム学年経営+1(プラスワン)の考え方を共有・集団の発達戦略会議を計画的に実施
 D: 外部講師を招聘して校内研修を行い、自己内省を行うと共に、横浜市教育委員会が開催する研修の計画受講やeラーニング受講の推奨と、受講研修内容について教職員への還元を積極的に行う
 D: 「チーム学年経営(+1)」を活用し、人材育成指標の3要素「教職の素養・専門性・マネジメント」の向上を日々実践する。働き方改革を意識し、持続可能な改善を実感できるようにする。
- C** D: 「チーム学年経営(+1)」を活用し、人材育成指標の3要素「教職の素養・専門性・マネジメント」の向上を日々実践する。働き方改革を意識し、持続可能な改善を実感できるようにする。
 C: 教務会・主幹会等でミドル層を中心として校内人材育成や組織・支援体制の実態を見つめ直す
 CAP: 学期末には、再度、教育委員会の研修を受け、自己目標や相互支援の振り返りを行い、今後の自己目標や相互支援について改めて認識を新たにする。(新たな分析チャート作成・見える化)
- A** CAP: 学期末には、再度、教育委員会の研修を受け、自己目標や相互支援の振り返りを行い、今後の自己目標や相互支援について改めて認識を新たにする。(新たな分析チャート作成・見える化)

活動の成果： ※課題設定に対して、どんな影響、変化あったか、参加者の声など客観的な情報・データ

- ・人材育成システムの分析チャートの作成によって、自己分析ができ、自己の目標設定がよりクリアになった。
- ・「チーム学年経営+1」が効果的に循環し、相互に関わり合うよさやセルフ・マネジメントの理解が進んだ。
- ・「eラーニング中」のカードをPCに掲示したり、受講した「eラーニング」を紹介し合ったりすることが日常化した。

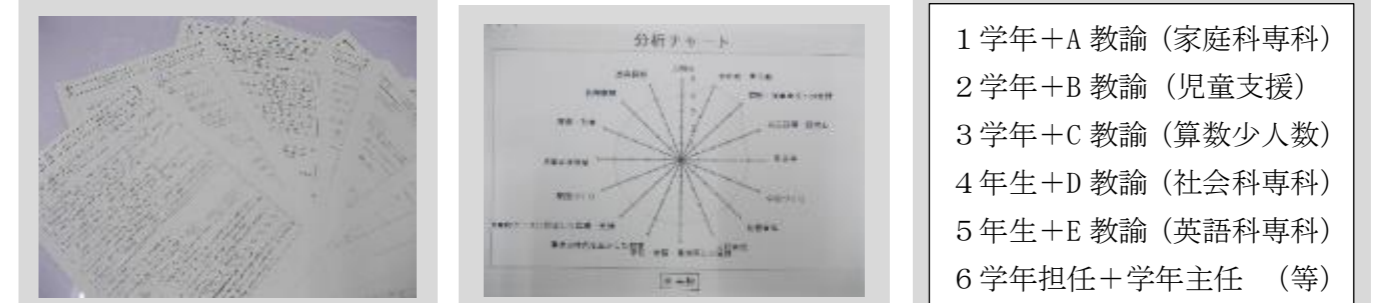
アピールポイント(アイディアや工夫)： ※3~5つ程度、箇条書きしてください。

- ・「チーム学年経営(+1)」の有効活用 (2年生以上教科担任制と各学年+1の職員を学年担当)
- ・学校長が週に一度の打ち合わせで「新しい教育活動の創造」について絶えず発信
- ・集団の発達戦略会議を定期的に行い、教職員全員でゴールの姿に向かうための手立てを考え共有して実践
- ・横浜市教職員人材育成システムでの分析チャートの活用(自身の資質能力の見える化)
- ・校内研修実施(外部人材・指導主事)と外部研修の計画受講(eラーニング)と教育活動との往還

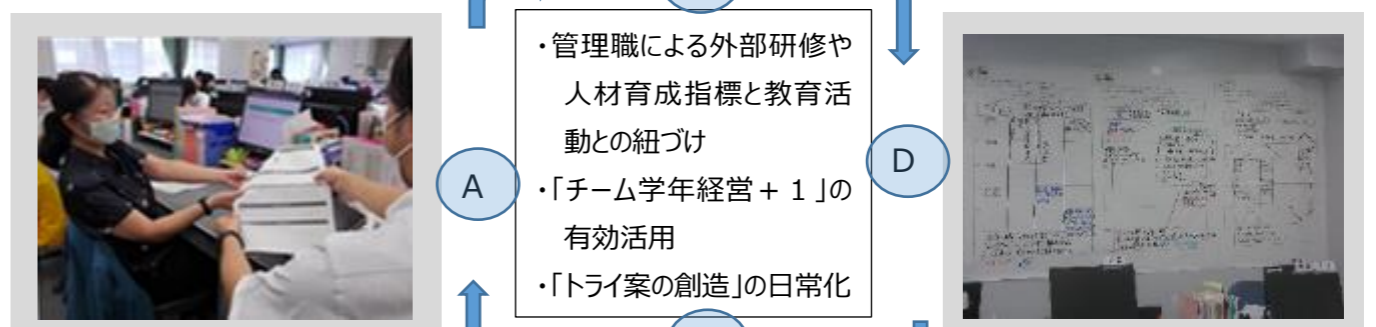
＜横浜市教職員人材育成指標(令和2年2月改定)＞



＜AP: 学校長だより「トライあんど」＞ ＜CAP: 分析チャート: 目標設定時＞ ＜PD: チーム学年経営+1＞



＜CAP: 分析チャート: 振り返り時＞



＜D C: 教育委員会指導主事研修＞

＜D: 講師招聘 校内研修＞

＜D: eラーニングでの研修受講＞



＜人材育成分析チャート作成・目標や支援共有研修後の感想＞ →【トライし続ける教職員集団へ】

- ・自分の資質能力が「見える化」でき、自己分析が進んだ。今後、意識していく点があきらかになった。
- ・「支えてくれる」という言葉が心強く、頑張ろうという気持ちになった。また、頼っていいという安心した気持ちになった。
- ・研修を受けたり進んで指導を受けたりするなど、足りない部分を自分から高めていかなければという気持ちになった。
- ・分析チャートが共有できると他者への関わりもしやすい。経験の浅い教員に積極的に声をかけていきたい。
- ・自分は、学校運営への関わりが低い。思っていたことだが、「見える化」してなお自己認識した。改善していきたい。